

ボランティア参加者に聞く

今回出会ったボランティア参加者に、参加した動機や復興への思いなどを伺った。まず港で側溝の泥あげをされていたグループにインタビューをした。

不要になったランドセルを集め、1024個を被災地に送ったと話されていた。クムスタカリンクの代表の小林久美さんは、バザーで集めたお金でフリピンの小学校に資金援助をしたり、子どもたちに奨学金を送っ

この団体は埼玉県ふじみ野市の文京学院大学の学生サークルや、NPO法人・クムスタカリンクの呼びかけに応じた会社員、大学生、専門学校生、市議会委員や元レスキュー隊員など、合計34人で構成されていた。文京学院大学の学生である細谷貴史さんは、昨年の5月に



ふじみ野市の団体にインタビュー

たりと積極的な活動をされている。東北限定のボランティアではなく、様々な市民団体の力が東北に集まっていた。インターネットなどでこの呼びかけに応じて参加された方からは「親に言われて興味を持った」「会社の休みを有効活用しなかった」など、様々な動機が聞かれた。また「今の瞬間にしかできないことをするために来た」という方もおられた。

海外のNGO団体も参加している。次に、一緒に畑の造成をしていた方々にもお話を伺った。NICEという国際組織を通じて集まった方々で、外国人もたくさんおられた。その中にロサンゼルス警察を退職後、世界各地のボラ



元ロサンゼルス市警のキムさん

ンティア活動に参加されているキムさんという方がおられた。彼女はハイチ大地震の際にも、国境を越えて復興支援にも参加された。とてもフレンドリーな方で、最後には私たちと歌を歌いながら作業をしてくださいました。この取材で、参加者の復興への強い思いを知ることができた。(原田留奈)

東北の人 特別号

復興を支える 野間慎一郎さん



今回は、センター職員の野間慎一郎さんにスポットを当ててみた。私たちが最初にボランティアセンターを訪れた際、野間さんは事務所の壁

に貼り付けてある写真や新聞記事を指さしながら、一つ一つ丁寧に説明してくださいました。被災前後の陸前高田市の写真、また、極秘で陸前高田市を訪れ、トラックのコンテナ上でミニライブを行ったAKB48の写真などを紹介し、数多くの思い出を懐かしそうに話していただいた。またボランティア作業からセンターに戻ってきた人たちに、温かい飲み物やお菓子を手渡しして、ボランティアの方々と積極的にコミュニケーションを図っていた。参加者にとってはたった一度の訪問かもしれないが、その一回をとっても大切にされ、来られた方を温かく迎える、まさにホスピタリティ精神あふれる光景だった。また、突然私たちの名前を尋ねると、すぐにセンター特製のネームホルダーを作ってくださいたり、帰り際に陸前高田市のマスコットキャラクターである「ゆめちゃん」のキーホルダーをプレゼントしていただくなど、私たちの心は完全に野間さんに奪われた。そして別れ際には見えなくなるまで手を振っていただいた。モノや言葉だけでなく、笑顔、そして優しさあふれる振る舞いから受け取ったメッセージは私たちの心に強く残っている。ボランティア体験を通じて、人と人との関わり方を学ばせていただいた。

(野崎うみ)

立ち上がり始めた被災地の人々

復興商店「採れたてランド」 私たちはボランティアの帰りに、プレハブで営業を開始された、地元の農産物直売店「採れたてランド」に立ち寄った。元の店舗は津波で流されてしまったため、中小機構の支援を受けて店舗を再建し、昨年の6月26日から営業を再開した。店内には地元の農産物の他、陸前高田の名物「奇跡の一本松」をモチーフにした昆布の加工品や、地元で採れた海苔を練りこんだ煎餅などの土産物が販売されており、中でも地元で加工されたリンゴジュースが観光客には一番人気だ。この店に勤めて13年というベテラン店員の船本恵子さんは「観光客やボランティア参加者の方が復興を支援するために購入してくださるので、心が温かくなります。出品者から売り上げの13パーセントを手数料として収めていただくというシステムは



「採れたてランド」の店内で取材

津波に堪えたガソリン店 リンスタンド・「星石油店」 社長の星真一郎さんにお話を伺った。このガソリンスタンドは海岸沿いに立地しており、津波で屋根と壁の一部を流された。しかし店舗の鉄骨と壁の一部が残り、給油施設も無事だったため自分たちで屋根やドアなどを直して昨年の5月25日から営業を再開した。星さんは「地震が起きた時は、人を助けるより、とにかく自分が逃げることにだけを考えなければいけない。近所の中学校は、前日に行った避難訓練の経験を生かして、全員が無事に避難できた」と、津波の経験を生々しく話していただいた。また、「ガソリンは復興に不可欠なもの」との思いから、一日も早く店舗を再開したいと努力された。陸前高田の地域の様子からは、徐々にではありますが復興の兆しが感じられた。(原田留奈)

編集後記 今回の取材で感じたことは「なんて人の心は温かいのだろう」ということだ。東北に行かせていただいたことに感謝している。(野崎うみ) 今回の取材で人と人との「絆」の大切さを改めて確認した。心の絆が生まれれば、一生の仲間ができると思った。(吉川友沙) ボランティアを通じて、被災地とボランティアのつながりを知ることができ、自分もその一員になれたことがとても嬉しかった。(原田留奈)



復興への熱い思いを語る星真一郎社長



元の店舗で営業を再開した「星石油店」